

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	かざみどりあすなろ		
○保護者評価実施期間	令和8年 2月 16日		～ 令和8年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	26	(回答者数) 20
○従業者評価実施期間	令和8年 2月 16日		～ 令和8年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 3
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 3月 9日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	就労体験プログラムを取り入れている。(中・高生向け)	・自己理解や働くことへの意識づくり、余暇の楽しみ方を促す支援を行っている。また仕事仲間として声を掛け合いコミュニケーション力をつけていく支援をおこなっている。	・対象児童に合わせて、プログラムを変更し実施していく。 ・就労支援施設あすなろとの連携を図り、より「仕事」という意識をつけていけるようにしていく。 ・保護者参観を実施し、保護者と共に就労に向けての支援を共有できる場を作っていく。
2	お仕事体験のプログラムを取り入れている。(小学生向け)	・さまざまな仕事の体験が出来るよう、かざみどりショップとして、店員や作り手等を体験し、好き・得意を見つけられるよう支援をおこなっている。また、かざみどりPAYが報酬としてもらえ、余暇活動に使用できる仕組みをつくり、働く喜びへとつなげている。	・現在を行っていることを継続して行っていく。 ・働く喜びを知り、就労体験へとステップアップしていく流れを作っていく。
3	保護者と意思疎通ができています。	・送迎時にその日1日の児童の様子を伝えている。また気になることがある際には積極的に保護者に尋ねている。	・現在行っていることを継続して行っていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	放課後児童クラブや地域の子ともと交流する機会が少ない。	・交流センター等を利用しているが、予約をして借りている事が多く、一般の方との交流の場となっていない。	・予約した際も一般開放している等の情報を施設側にも伝え促してもらおう。また、地域イベントへの参加やかざみどりで開催しているイベントの一般枠を設ける等して、交流の場を作っていく。
2	新規児童の獲得	保護者の働いている時間帯と、開所時間がマッチしておらず、利用が難しい。	・児童クラブ等と連携をはかり、送迎先等の間口を広げていく等、利用者のニーズに寄り添っていく。
3	子ども達の活動量に対して療育室のスペースが狭く感じる。	・基準は満たしているが、支援内容や活動プログラムによって狭く感じる時がある。	・体育館等の施設を活用するなどし、改善していく。